

2013年12月14日

第3回小樽商科大学応援団ワークショップ 「代交代」式典 報告書

文責 事務局 森田 晃一

- 1 実施日時 平成25年12月14日(土)
11時～12時 商大学生会館1階 食堂
- 2 参加者 合計43名
OB 6名 応援団 13名 学生 22名
北大OB 1名 北大恵迪寮生 1名

3 内容

午前11時 学生会館の食堂内に作られた特設会場で100代交代式が挙行される。

司会進行の後援会大坂の司会から開催に至った経緯の説明や、会場に足を運んでくれたボート部の学生や留学生、千川先輩以下北大の恵迪寮生ら約30名の参加者に感謝の言葉が述べられる。



99代参謀光永が百代交代式を宣言して始まる。99代参謀光永が参加者に式次第を叫びながら「代交代」の式を進行させ、司会の大坂が合間合間に解説を加えるというスタイルを進める。全てはぶっつけ本番。果たしてどのような式典になるのか。

最初に、光永参謀がエール先導し参加者全員による校歌斉唱を行う。続いて団長の檄が行われ、99代堀井団長が檄文を高らかに読み上げる。内容は、我々は今まで商大に面々と続いてきた伝統を守ってきたこと、次代に対して商大のために努力するように激励する内容であった。



次に100代となる団員による胡蝶の舞型の披露である。窓外に広がる真白き小樽を背景に、純白の扇子を指の間にしっかりはめ、一拍子、二拍子、三三七拍子を演じきる。指先まで神経を張り巡らせた扇子捌きと、堪えという独特の低姿勢により、迫力のある演舞を行った。司会より、初夏の対面式では披露しなかった演舞である旨の解説が入った。

演舞の後、今までとは趣向を変えて、次代の100代応援団長西垣が檄文披露する。99代の各先輩へのお礼を述べ、さらに100代を引き継ぐ決意として「99代を越えてみせよう、あとは俺たちに任せろ」と頼もしい言葉を表明し、重い伝統を背負う覚悟に満ちた表情であった。

最後に、若人逍遙の歌を副団長の先導エールにより、参加者全員で肩を組み声高に歌い上げ、代の交代式は無事終了する。



代交代式の終了後、正午から99代への労いと100代誕生の喜びを分かちながら昼食望年會が開催される。札幌から駆けつけた北海道大学応援団OB会である北海道延齡會の千川浩治先輩から、「商大応援団が100代を迎え、こうした立派な交代式を見ることができたことに感謝申し上げます。（北大に比べると）小規模な大学でありながら多くの学生が応援団の伝統を引き継ぐのを目にして涙した。200代、300代までも続くように期待している。」と乾杯の祝辞を頂いた。



開宴後、テーブルでは団員を囲み、和やかな雰囲気の中で会食が進む。途中、当会の小西事務局長より、ボート部OBで昭和39年度応援団副団長だった渡辺捷弘先輩からの祝電が披露される。「不易なる精神」という言葉に触れ「不易」とは変わらないことであり、小樽高商の頃より緑丘に連綿と培われてきた精神ととらえ、これからも「不易なる精神」とは何かを自らに問いかけていくこと、其の精神を堅持していくことの大切さを訴える。

和やかな雰囲気の中で歓談が行われた後、100代応援団の各役職者から改めて自己紹介エールと抱負が披露された。新団旗長兼鼓手長の田中は、「団旗長兼鼓手長の田中と認識される存在になる。OBから認められる団旗長兼鼓手長になる」と宣言した。新参謀の鈴木は、「応援団の脳みそとなる。対面式に対して緻密な計画を立てる。」と確言した。新副団長の森は、「全身全霊を傾け、歴代最高の演舞を披露する。」と名言した。

新団長西垣は、「歴代団長の中で、誰よりも高く下駄を上げる団長になる。来年の北大との対面式も圧勝したいので、皆様の協力を願います」と高らかに誓言した。

引き続き99代応援団から「100代目の重圧に負けずに頑張してほしい」などと熱い言葉がかけられ、次代の面々は、真剣に言葉に聞き入っていた。

ボート部の上杉主将から、「いつも定期戦の時には応援に来てもらい感謝している。100代応援団も頑張してほしい」とお礼の言葉があった。

恵迪寮から駆けつけた我如古さんは「対面式では、綱引きなどで負けはしたが、全体の競技を含めると北大が勝っていた。応援団、恵迪寮の者のみならず、札幌市民一丸となって待ち構えている。」と期待の言葉が贈られる。



最後に当会の中川会長から、「復活から5年経ち、来年100代の対面式になる。ここまで辿り着けて嬉しい。そして99代の団員、ありがとう。100代よ頑張れ。」と閉会の辞が述べられる。望年会は盛大な拍手でお開きとなる。

以上